

# 練習問題の解説

## 第7章 経済政策の有効性

1. 一国の経済が、次のようなマクロモデルによってあらわされています。

$$\text{財市場： } C = 0.8Y + 40, I = -4r + 30, G = 20$$

$$\text{貨幣市場： } L = 0.3Y - 4r, M = 120$$

ただし、 $C$ ：民間消費、 $Y$ ：国民所得、 $I$ ：民間投資、 $G$ ：政府支出、 $L$ ：貨幣需要量、 $M$ ：貨幣供給量、 $r$ ：利子率とします。ここで、政府支出が 10 増えるとき、民間投資がどれだけクラウドアウトされるか答えなさい。

[ERE 第 10 回 2006、国家Ⅱ種・平成 12 年度 など]

解答：民間投資は 6 だけクラウドアウトされます。

**【解説】**

政府支出が 10 増えることで、IS 曲線が右にシフトし LM 曲線に変化がない場合、利子率が上昇します。利子率の上昇によって民間投資がどれだけ減るかを計算します。下図も参照してください。

財市場の均衡式  $Y = C + I + G$  に問題で与えられた関数を代入し、

$$Y = 0.8Y + 40 - 4r + 30 + 20 \text{ を得ます。}$$

これを整理して、

$$0.2Y = 90 - 4r \text{ これが IS 曲線です。} \dots \textcircled{1}$$

貨幣市場の均衡式  $M = L$  に問題で与えられた関数を代入し、

$$120 = 0.3Y - 4r \text{ を得ます。}$$

これを整理して、

$$0.3Y = 120 + 4r \text{ これが LM 曲線です。} \dots \textcircled{2}$$

①式と②式を連立方程式として解いて、均衡値を求めます。①式と②式の左右両辺をそれぞれ足して、

$$0.5Y = 210 \text{ 、 } Y = 420 \text{ の均衡国民所得を得ます。}$$

これを①式に代入して、 $r = 1.5$  を得ます。これを投資関数に代入すると投資は  $I = 24$  になります。これが初期投資量です。

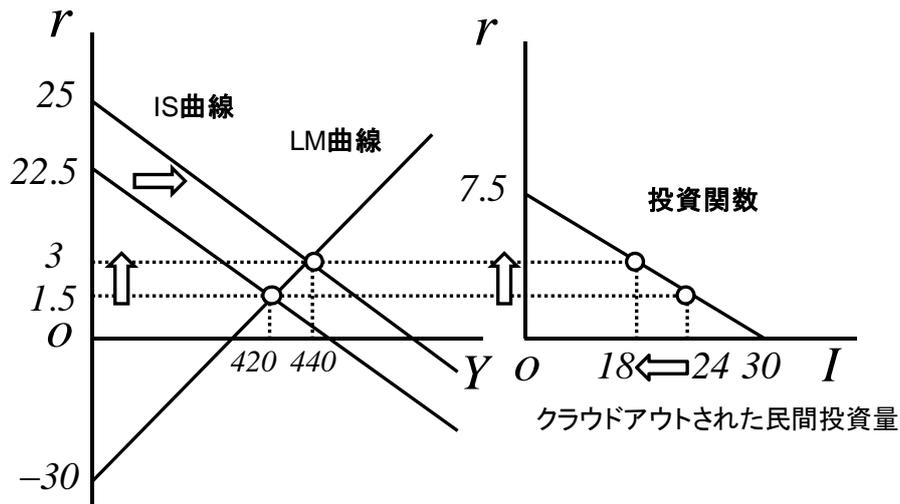
ここで政府支出が 10 増えると IS 曲線が右にシフトします。

$$Y = 0.8Y + 40 - 4r + 30 + 30 \text{ を得ます。}$$

これを整理して、

$0.2Y = 100 - 4r$  これが新しい IS 曲線です。・・・③

①式と③式を連立方程式として解いて、新しい均衡値を求めます。 $0.5Y = 220$ 、 $Y = 440$  を得ます。これを①式に代入して、 $r = 3$  を得ます。これを投資関数に代入すると投資は、 $I = 18$  になり、投資が 6 減少したことがわかります。つまり投資が 6 だけクラウドアウトされたこととなります。



2. 次の記述の続きとして、正しいものは次のうちのどれですか。

「経済政策について、ルーカスが、マクロ計量モデルを批判したのは、」

- (1) モデルの大型化が、人々の経済政策への理解を難しくしている点であった。
- (2) 政策変更の必要性を認知し実施するまでのプロセスに、時間がかかりすぎる点であった。
- (3) モデルの構造パラメータが、政策変更によっても変化しないと仮定している点であった。
- (4) 政策決定が、少人数の啓発的賢人グループによって行われていると仮定している点であった。

[ERE 第2回 2002、地方上級・平成9年度 など]

解答:正しいのは(3)

【解説】

- (1) 誤り。たしかに、モデルの大型化が、人々の大型マクロ計量経済モデルへの理解を難しくしている点はあると思います。一万本の方程式と一万個の未知数であらわされるマクロ計量モデルは、素人にはいや経済学者でも専門家以外には理解不能でしょう。しかしこれがルーカス批判の意味ではありません。
- (2) 誤り。政府による裁量的政策には、時間の遅れ（タイムラグ）が存在します。タイ

ムラグは、認知のラグ、実行までのラグ、効果発生までのラグがあります。しかしこれもルーカス批判ではありません。

- (3) 正しい。ルーカスの批判は、「マクロ計量モデルの構造パラメータの値は、政策の変更によって変化する。したがって、政策の変更後も、それまでの構造パラメータが変わらないものとして、新しい政策の効果を評価するマクロ計量モデルの方法は適切でない。」というものです。
- (4) 誤り。これもルーカスの批判とは違います。少人数の啓発的賢人グループといえ、ケインズの「ハーベイ・ロードの前提」を想起させます。

### 3. ケインズ派の裁量的政策運営の有効性に対する批判について、最も適切なものはどれですか。

- (1) マネタリストは、毎年財政支出を GDP の一定比率に保つというルールにしたがった財政政策によって、経済を安定化できると考える。
- (2) マネタリストは、裁量的政策に関わる各種のタイムラグの存在により、かえって景気変動が激化することがあると考える。
- (3) ルーカスらの合理的期待学派は、裁量的政策は短期的には有効だが長期的には無効であると考えます。

[ERE 第9回 2005、地方上級・平成15年度 など]

解答:最も適切なものは(2)

#### 【解説】

- (1) 誤り。マネタリストは、貨幣供給量を一定の率に保つという、フリードマンの  $k\%$  ルールにしたがった金融政策によって、経済を安定化できると考えています。
- (2) 正しい。マネタリストの総帥であるフリードマンは、経済状況の改善をめざして実施される裁量的な経済政策はかえって経済状況を悪化させる可能性があるとして警告します。なぜなら政府による裁量的政策には、時間の遅れ(タイム・ラグ)が存在するからです。タイム・ラグは、認知のラグ、実行までのラグ、効果発生までのラグの3つに分類されます。
- (3) 誤り。ルーカスらの合理的期待学派は、合理的期待形成のもとでは裁量的な財政・金融政策は短期的にも長期的にも無効で实体经济に影響を与えないと主張します。

4. マクロ経済学者の財政・金融政策の有効性に関する記述のうち、誤っているのはどれですか。

- (1) フリードマンの新貨幣数量説では、貨幣供給量の増加を伴わない財政拡大政策が国民所得を増大させる効果はたかだか短期的なものであり、長期的には公債の富（資産）効果を通じて打ち消される可能性があると考えられる。
- (2) マネタリストの見解では、金融緩和政策は名目利子率を変化させるが実質利子率を変化させることはないため、国民所得の増大効果はないと考える。
- (3) ルーカスなどの合理的期待学派は、人々が経済構造や政府の政策などに関する情報を、最大限有効に使うことで期待形成をすることから、裁量的な財政・金融政策は短期的には有効であっても長期的には効果がないとする。
- (4) 新リカード理論では、合理的な人々は現在発行された国債の償還や利払いが将来の増税によってまかなわれることを考慮するとされるが、現在の減税が将来の政府支出の削減のためであることを人々が理解するときには、減税によって消費は増大すると考えられる。

[ERE 第5回 2004、国税専門官・平成20年度 など]

解答: 誤っているのは(3)

【解説】

- (1) 正しい。教科書 99 ページを参照してください。
- (2) 正しい。マネタリストの見解による金融緩和は通貨供給量を増加させることです。当局が通貨供給量を増加させることは、人々に将来のインフレを予想させるので、名目利子率が上昇します。
- (3) 誤り。ルーカスなどの合理的期待学派は、人々が経済構造や政府の政策などに関する情報を、最大限有効に使うことで期待形成をすることから、裁量的な財政・金融政策は短期的にも長期的にも効果がないと考えています。
- (4) 正しい。教科書 101 ページを参照してください。

5. 他の条件を一定として政府支出のクラウディングアウトが大きくなるのは、どのケースですか。

- (1) 貨幣需要の利子弾力性が大きい場合
- (2) 設備投資の利子弾力性が小さい場合
- (3) 流動性のわなが生じている場合
- (4) 限界消費性向が大きい場合

[ERE 第12回 2007、地方上級・平成15年度 など]

解答:(4)

**【解説】**

- (1) 貨幣需要の利子弾力性が大きい場合は、LM曲線の傾きが弾力的になり、利率の上昇が抑えられるので、クラウディングアウトが小さくなります。
- (2) 設備投資の利子弾力性が小さい場合は、たとえ利率が上昇してもクラウドアウトされる投資は少なくなります。
- (3) 流動性のわなが生じている場合は、LM曲線が完全に水平になるので、利率に変化がありません。つまりクラウディングアウトは発生しません。
- (4) 限界消費性向が大きい場合は、IS曲線の傾きがより水平になるので、たとえ利率の上昇が少なくても、クラウディングアウトの効果は大きくなります。